

令和5年度 第1回学校運営協議会(兼コンプライアンス委員会)議事録

静岡北特別支援学校 南の丘分校

1 日 時 令和5年5月11日(木) 午前10時から12時まで

2 参加者 校長、事務長、副校長、部主事、進路指導主事、教務課長

学校運営協議会委員 5人

相羽 裕介 様	静岡市役所駿河区役所地域総務課地域防災係係長	防災関係
加藤 孝枝 様	南の丘分校PTA会長	保護者代表
炭田 直哉 様	独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 静岡支部静岡職業能力開発促進センター 所長	就労・障害者雇用関係
田代 信一 様	静岡市駿河区保護司 (防犯予防担当・防犯予防副会長)	防犯関係
野村 和代 様 (令和5年度コーディネーター)	常葉大学教育学部講師	障害福祉・指導関係

※富士見学区自治会連合会会長登呂二丁目自治会長 石田 幸彦 様 及び 浅野・若狭法律事務所 弁護士 若狭 秀和 様 は今回、欠席。

3 内容

(1)校長挨拶

・新型コロナウイルス感染症第5類に移行して1週目。一般的にはマスクの着脱は個人の判断となったが、高等部分校を除く特別支援学校においては基礎疾患ありのお子さんがいたり、マスクの着脱の判断が難しいことや人との距離の取り方が難しいお子さんがいたりする関係で、マスク着用は推奨する形で、細かな判断は保護者に委ねるものとされている。教員は、指導中のマスク着用を継続している。

・来年度(令和6年度)、南の丘分校は創立20周年記念、北特別支援学校本校は50周年記念として、子どもが活躍できる催しを行う予定。

・静岡北特別支援学校本校の老朽化、狭隘化から、令和5年度予算で校舎建替え工事の設計が行われることとなった。また、令和8年度開校予定の新校に、知的障害特別支援学校高等部と静岡視覚特別支援学校が併設されるため、現在の静岡視覚特別支援学校の敷地内に新たに4階建ての校舎が建設される予定である。

今後、静岡視覚特別支援学校の児童・生徒と教職員が静岡南部特別支援学校に引っ越し、令和7年度末まで教育活動を行う。南の丘分校は、昨年度募集から1学級増となり、今後生徒数が増えていく見込みである。

このように静岡県内のみならず、静岡市内の特別支援学校の在り方が大きく変化する転換期を迎えている。

静岡市を全体として捉え、これまでは「軽度」知的障害の生徒を受け入れる分校だとしてきたが、今後はどうあるべきかなどについても、考えていきたい。

そうしたことを含め、南の丘分校の教育活動等について、この学校運営協議会の場を使って委員の方々と一緒に考えていきたい。

(2)令和4年度分校経営についての学校側の説明と承認

※ここから司会はコーディネーター 野村 様

ア 学校経営計画

- ・『南の丘分校ランドデザイン』をもとに、説明。
- ・昨年度との変更点は、目指す生徒像を「働くことを厭わないひと」としてきたが、今年度より「自他の良さを認め、生き生きと働くひと」とした。自分にとって得意なことだけでなく苦手なことも理解した上で、将来生き生きと社会で働き、生活していったほしいという願いをこめている。
- ・今年度は、『「夢中」と「笑顔」で共生社会を生きるひと』という教育目標を掲げ教育活動を行う3年目の年度となる。自分の目標は誰かから与えられるものではなく、自分で目標を立て、主体的に学び、自己実現をしていったほしいと考えている。
- ・教育目標実現のための具現化の柱は、3つ。
- ・昨年度4回目の学校運営協議会で、令和5年度の学校経営目標について成果目標を数値化することについて御指摘をいただいたが、目に見える形で結果を評価し次年度に繋げていきたいという観点から数値を挙げることにした。ただ、数字だけ達成すればよいとするものではない。また、セクハラ・パワハラに関することについては、問題が生じたときに第三者機関等に相談する体制を取りたいと考えている。

イ 学部経営

- ・何でも労を惜しまずに働くというのではなく、うまくいかないことも含めてたくさんの経験をし、自分の得意なことを活かして活動していったほしい。また、南の丘分校だけでなく駿河総合高等学校の生徒との関わりの中で色々な人がいることを知ってほしいと考えている。
- ・目指す生徒像に向かう学部の指導方針は、生涯にわたり健康に過ごすための体づくりを狙い「健康管理」、周りの人と適切に関わるための「挨拶、返事」、周りの人の良さを認めることができるよう「周りの人を思いやる力」、仕事・余暇・暮らしのバランスを保ちながら、働く人を目指した「進んで行動する力」の4つである。共生共育の目的と、活動について、生徒たちにつけてほしい力を整理し、よりよい教育効果を目指した共生共育の在り方を見直していく必要があると考えている。

ウ 進路状況について

- ・令和4年度の進路決定状況について説明。業種としては、製造や小売業に就く生徒の割合が高かった。
- ・令和5年度高等部3年生が就職を希望する業種は、清掃や飲食関係が多数。

エ 不祥事根絶計画

- ・南の丘分校の取組計画として、まずは風通しのよい職場環境を目指すことが不祥事を未然に防ぐものであると考える。
- ・6月は交通安全に特化した目標としている。
- ・文科省からも性暴力等防止に関する通知がきている。研修を継続していく。

(3)授業参観後、御意見・感想等（今回は、主に環境面、施設設備に関する視点で参観を依頼。）

- 作業学習に取り組むための服装、整っていた。
- デジタル化が進む中、新聞を読む習慣づけのための取組は、とてもよいと思う。
- 新聞コーナー等のNIE活動、情報の取入れ方を学ぶものとしてよいと感じる。
- 学校経営書について、昨年度当初のものと比較し、よりよい教育活動の展開のために前向きに見直しが見直しがされており、評価できる。
- △印刷班、コンセントにつながっていないコードの取扱いについて。(全国で転倒による労働災

害が多いことから、転倒事故防止に力を入れている。)

△印刷班、スリッパで作業をするのはどのような目的や意図からなのか。

△地域サービス班のホワイトボードに貼られていた目標について、子どもたちは理解して取組んでいるか。できれば、生徒が理解しやすい文言で示し、生徒がどのポイントまでできるようになったのかを生徒自身が確認できる目標にしてみてもどうか。

- ・企業では、作業や職場にひそむ危険性や危険要因を発見し解決する能力を高める手法として危険予知訓練(KYT)を取り入れている。
- ・めざす生徒像のバージョンアップの意図等について伺い、次に向けてとても楽しみである。
- ・新聞コーナーの取組について、どのように行っているかを教えてほしい。
→新聞のその日の一面記事を読み、図書委員の当番が掲示をし、コメントを書いて紹介している。
- ・不祥事根絶について、大学では、計画書をフロチャートにし、それぞれの役割が分かるように示している。また事案が起きた場合に誰がどのように聞き取りをするのか「聞き取りマニュアル」等を作成している。

***学校経営計画及び不祥事根絶取組計画について承認を受けた。**



(4)協議「南の丘分校を知っていただくための具体的な活動について」

「南の丘分校を知っていただくための具体的な活動」を今年度の協議の視点とし、昨年度の学校運営協議会でいただいた具体的な活動案(A案・B案・C案)の3つを振り返り、A案とC案に関連した活動の進捗状況について説明し、御意見をいただいた。

- ・現在、静岡市役所駿河区役所内『みりよくの森ひろば』(行政の催し物や防災に関わる啓発事業等の発信スペース)にて、期間は限定されるが南の丘分校の紹介VTRや物販等ができるか、駿河区役所障害者福祉課と連絡・調整をとりながら9月、10月あたりを目標に準備を進めている。
- ・常葉大学では、ゼミ生が性教育を切り口に、人との関係性について「思いやり」をテーマにして探求を行っている。今後、B案に繋がっていくものになればと考えている。
- ・地域のボランティア活動を通して南の丘分校を知っていただくのはどうか。7月には『社会を明るくする運動』そして犯罪や再犯防止のチラシ配布や10月～12月にかけて『赤い羽根共同募金』の募金活動等がある。
- ・「職業」に係る学習の参考として、職業情報提供サイト(日本版O-NET) job tag(ジョブタグ)について情報提供をいただいた。適職探索ができる機能がある。
- ・子どもたちはたくさんの経験、体験の中で学び、成長していると感じている。特に、昨年度の

「南の丘商店街」では、作業製品販売の際に、地域の方との関わりの中で生き生きと活動する様子を見て、たくさんの人との関わりがその先の働くことにつながっていると思う。学校内だけでなく、地域の人に南の丘分校を知ってもらうための取組の必要性を感じる。

(5)まとめ、御礼の挨拶（副校長より）

- ・協議のテーマとした「南の丘分校を知っていただく」ための具体的な活動を行っていくためには、一つ一つ解決していかなければならない課題が山積しているが、じっくり一歩ずつ進めていきたい。
- ・次回は、職業の授業を参観していただく中で、生徒の考え方や表現の仕方などを感じてほしいと考える。

次回開催日時：7月 13 日(木)午前 10 時から午前 12 時まで